

i4 WG

2017年度活動報告 & 2018年度活動計画

2018/06/01

報告者： 2017年度WG参加者 梶川 伸樹

1. 2017年度「i4 WG」活動趣意書
2. 参加メンバー（7名）
3. 活動概要
4. 活動日程（全10回）
5. 活動の成果
 - ① SCORモデル活用による課題深耕、明確化
 - 1. 工作機械用工具のG-SCM構築
 - 2. フィルム化学メーカーのSCM指標見える化
 - ② SCORを活用したS&OP業務の確立
自社のマネジメントサイクルをSCOR(S&OP)で再定義
6. 活動のまとめ～成果と課題
7. 次期の活動計画

1. 2017年度「i4 WG」活動趣意書

■活動の 位置付け

- ・ 発足時の活動方向性を基軸に据えた上で、2017年度は「IoT/AIで実現する提供価値が無意識下に置かれるこれからの時代(次代)、SCORに代表される参照モデルはどのように活用できるか、また活用すべきか」を探求する目的で調査・研究に取り組む。

【調査・活動基盤対象】

i4 WGは「IoTに代表されるIoT」「AI」「Industrie 4.0」「IIC:Industrial Internet Consortium」「IVI:Industrial Value Chain Initiative」及び、メンバが触れることのできる情報ソースも含め、対象を広く捉える。 ※ VCPCはIVIの賛助会員として入会済み。

■NDAにサイン ■活動概要

極力、生の情報と実務に触れる為に、WGの場に限定して情報をオープンにする

- ・ IoT/AIの動向調査・事例調査(動向変化をモニタリング)
- ・ 事例研究対象:IoT/AIが実現する提供価値についての考察
- ・ 現状のSCORメトリクスで上記の価値が表現できるか。提供価値実現の仕組み・構造をSCOR Enableも含めたプロセス要素で表現できるか、等のトライアル・モデリング
- ・ 上記活動を進める上で必用となる、SCORの基礎知識獲得、個人学習、WG内の支援。
⇒ WGの内外で、「SCORに馴染む機会」を設定。「SCOR活用ミニWSコース」案次頁。

■成果物定義

「仮題:IoTで実現する提供価値とSCOR」研究レポート

■募集メンバー

本趣意書にご賛同いただき、参加を希望するVCPC会員の方々

■日程

毎月一回(土曜日AM) 10:00 ~ 12:00 (延長時Max13時)詳細スケジュール別紙参照

■開催場所

(株)日立ソリューションズ東日本 (JR川崎駅徒歩3分、京急川崎駅徒歩3分)19F

■TOPICS

メンバー間の連絡はNet上のグループウェア機能を使用

2. 参加メンバー（7名）

プラクティショナとして参加している3名は、WG経験の日も浅いが、自社業務への理解は深く、課題認識も単なる一部門の問題ではなく、複数部門間にわたる問題と捉えており、解決も一筋縄では行かないと見ている。この実務家を軸として、様々なベンダの専門家が集結しており、解決に向けて具体策をどのように適用すべきかのシナリオも併せ持っているメンバーが揃っている。

No.	所属企業/団体	所属部門/ 従事業務内容	参加率	備考
1	プラクティショナ	SCM部門	90%	
2	プラクティショナ	計画系業務遂行部門	100%	
3	プラクティショナ	業務改革推進部門	100%	
4	通信キャリア新事業(IoT)	コンサルタント	25%	IVI活動に参画
5	ドキュメントソリューションベンダ	情報システム部門	25%	CS向上へのR-M活用
6	エンジニアリングサービス	個人事業主	100%	テクニカルアドバイザー
7	ITソリューションベンダ	コンサルタント	100%	WGリーダー、ファシリテータ

3. 活動概要：WG初心者向け

■ 「SCOR活用ミニWSコース」案：知識獲得、活用スキル向上、実務適用に向けて

回	テーマ	活動タイプ			備考
		座学	スキル演習	実務適用	
1	【SCORの構造を知る】：Ver.Upの歴史、メトリクス編	○	—	宿題	
2	SCORメトリクスWS	—	○	—	WS：ワークショップ
3	【SCORの構造を知る】：プロセス編、ベストプラクティス編	○	—	宿題	
4	SCORプロセス・ベストプラクティスWS	—	○	—	
5	【SCを評価する】LSC編	○	—	宿題	LSC：ロジスティクススコアカード
6	SCOR活用に向けたLSC WS	—	○	—	
7	【自社のSCをSCORで描く】Lv.1、Lv.2、Lv.3	○	—	宿題	Lv.：レベル
8	SCORで描く自社のSC WS	—	○	—	
9	【SC改革にSCORを活用】自社を俯瞰して見える化編	○	—	宿題	
10	SCOR活用統合WS	—	○	—	

4. 活動日程

※ 下記の日程は会場の都合等に変更となる場合があります。
予めご了承ください。

回	開催月日	AM [10:00 ~ 12:00]	実施内容
1	07/08(土)	○	・キックオフ、メンバ紹介。 ・個人別成果物定義。成果物：定義書。
2	08/05(土)	○	・Using SCOR(翻訳版)配布、ウォークスルー
3	09/02(土)	○	・SCORプロジェクトWBS紹介
4	10/14(土)	○	・Using SCOR内容理解、ディスカッション
5	11/04(土)	○	・「SCOR入門」実施、T-D記述
6	12/02(土)	○	・メトリクス分科会、研究レポート・ウォークスルー
7	01/06(土)	○	・個人成果物作成
8	02/03(土)	○	↓ ↓ ↓
9	03/03(土)	○	↓ ↓ ↓
10	04/07(土)	○	・個人成果物レビュー、2017年度振り返り

-1. 工作機械用工具のG-SCM構築

スライド全画面版は、投影スライドを御覧下さい

14WG 2017年度活動内容と 2018年度活動計画

概観

1

2017年度活動目標

CONFIDENTIAL

- テーマ
 - IoT時代に生き残れる自社サプライチェーンの再構築
- 成果物
 - 需給管理体制のSCORによる記述
 - 自社業務への落とし込み
- WGへの期待
 - SCORの習得
 - ベストプラクティスに拠れ自社への応用を考える

2

2017年度活動内容

CONFIDENTIAL

「Using SCOR」by Peter Baskervilleの読み合わせ
主な議論内容

- 「組織の変更を得る」段階→「エグゼクティブに実行可否判断をもらう」がゴールになっているが、まず最初に「導入の検討をさせてくれ」についてもエグゼクティブの承認がいるのでは？
- 実行可否判断とプロセスの定義は同じタイミングで行うはずでは？(実行可否判断の大きな要素は「費用対効果」「儲かるのか?」)
- システムはインフラであり機能的な「効果」をどのように定義するか? (儲からない、利益に直結しない投資は認められない)

3

2017年度活動内容

CONFIDENTIAL

自社サプライチェーン再構築取組内容の検討
優先すべき「コミュニケーション手段に對し、即効である「在庫」の適正量確保」
具体的な作業内容

- 適正在庫量の設定
- 適正在庫量に基づいた在庫補充ロジックの設定
- パラメータ、ロジック管理ルールの設定
- 適正在庫量設定、在庫補充ロジック、管理ルールのシステム化
- オプティクス取得
- システム・管理の具体的運用

4

2017年度活動内容

CONFIDENTIAL

自社サプライチェーン再構築取組内容の検討
6. 実行計画

5

2017年度活動内容

CONFIDENTIAL

自社サプライチェーン再構築取組内容の検討
SCOR Levelでのプロセス記述

6

2017年度活動振り返り

CONFIDENTIAL

得たもの・ご協力に活かされたもの

- SCOR導入による業務改革の手續 (Using SCOR)
- 知識の蓄積
- 継続すべきこと
- 自社プロセスへのSSOP導入(あきらめない)

できなかったこと

- 自社プロセスへのSSOP導入
- SCOR習得(自社プロセスのSCORレベル3記述)

改善すべきこと

- 自身の改革実現に向けた取り組み(組織内での布教活動や協力者への働きかけが全くできなかった)

7

2018年度活動計画

CONFIDENTIAL

自社サプライチェーンで「世界需給管理体制」を構築する(具体的には)

- 世界需給管理部署の設立
- 世界需給管理部署の任務・権限・責任の設定
- 世界需給管理手法の構築
- 海外販社物流センターの資産保有部署の変更
- 管理体制を支えるシステムの構築

→2018年度末までに部署設立、2019年度より一部業務開始を目指す

8

2018年度活動計画

CONFIDENTIAL

14 WGでの取組内容

- 具体的な取組を進めるに際し、取組みの成否を左右する要因に関する情報の入手
- 取組み進捗管理手法に関する情報の入手
- 取組み内容の「妥当性」をメンバーに第3者の観点から確認頂く
- SCORの活用

9

(参考)コントロールフロー(需給・生産管理・物流関連)

CONFIDENTIAL

10

(参考)需給・生産管理業務(対象範囲並びに業務課題)

CONFIDENTIAL

11

6. 活動のまとめ～成果と課題

成果1. 新規入会でWG活動を始める際のコンテンツ整備

- ・VCPC WGのなかで、所謂、初心者向け、入門講座に位置付けられるWGが明確に提示できる状態になっていなかった(積年の課題)。今回、これに対して、幾つかの基本コンテンツを組み合わせ、入門講座に相当するものの開発が可能なのは、それも一人ではなく、皆んなでやる、グループ/チームで行うことで、より実業務に近いかたち(体制を整備して行う)で実現可能なのではと思わせるほど、SCC-J次代のWG成果物は貴重な調査・研究対象に位置付けられるようになってきている。

成果2. 自社の課題、問題点にダイレクトに価値創造を貢献

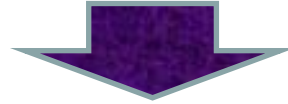
- ・過去のWGでは、一つのWGが一つ(又はそれ以上)の課題に対してアプローチしていたが、今回は同じコンテンツは持つものの、それを活用する先は多数存在することの気付きを得た。アプローチの際、所謂古くからあるWGの当時のコンテンツで、技術的にも安心でき、問題の核心を突けることができるものが、当時から開発・作成されていたということに、今更ではあるが、再認識するかたちとなった。

課題1. 外部機関への働き掛けとコラボレーションの進展 (2018年度以降の活動へ)

- ・IVIとの関わりは、限定したメンバの活動に偏ったかたちでしか展開できておらず、同機関との関係性を強化したり、VCPCの持つ価値を先方に認めてもらう等の、先々の関係性を良好に導くアクションのレベルに到達していないのが現実である。
- ・この課題は、対IVIのみならず、IIBA、BMIA等、国内/海外の有力機関との関係性構築や構築後の継続段階においても、充分とは言えず、中長期で考えた場合、有効性につながる多くの機会を逸してきたのではと思われる。VCPCの体制、構成メンバ、役割の割り振り等、現実的に動けるリソースをどう確保し、どう投入していくか。積年の課題となっている。

7. 次期の活動に向けて

「Buzz Wordに踊らされるのではなく、地に足が着いた活動を展開して行く」



**「温故知新：過去のWGの成果物を再評価。課題への対応、問題の解決、
これらを有効に進めることができるのならば、何でも活用すれば良い」
～2017 i4 WG**

目の前に転がる、課題、問題は、自社だけの特別なもの、と多くの方が考えております。
ところが、驚くほど同じ悩みや問題を、皆さんは抱えているのです。
適切に対応するには、ご自身の心持も重要であることは言を待ちません。
問題や悩みを共有するだけでも、ストレスは薄れ、プレッシャーにも強くなります。
WGで場と機会を共有することは、上記の交流を広げ、深めて行くことにつながります。

「i4 WG は、常にWGメンバーの新規募集を行っております」

ご清聴ありがとうございました。

月に一度は、大人の学びの世界に、ダイブしてみませんか。

2018年度、多くの方々と実践研究活動をご一緒できることを、楽しみにしております。

2017 i4 WGメンバー一同